

各位

## 環境社会報告書 2006 の発行について

2006年8月22日  
日本特殊陶業株式会社  
取締役社長 加藤倫朗

当社は、この度、当社グループにおける2005年度の環境・社会活動を「環境社会報告書2006」にまとめ、発行しますので、お知らせします。

### 1. はじめに

当社は、2000年から環境報告書を発行しており、2003年から社会面の内容を追加するとともに、環境面の充実を図ってまいりました。

今回の報告書は、企業理念の実現を目指す私たちの考えや取組みをお知らせするため、企業行動規範に沿った構成とし、名称を「環境社会報告書」と改めました。また、特に「わかりやすさ」を重視し、信頼される報告書を目指して編集しました。

### 2. 「環境社会報告書2006」の特徴

#### 名称及び構成の変更

企業行動規範に沿った構成とし、名称を環境報告書から環境社会報告書に変更しました。

#### ページ数の増加

社会面の内容の充実に伴い、4ページ増やして全44ページとしました。

#### 第三者審査

情報やデータの信頼性を確保するため、昨年に引き続き、テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社による第三者審査を受けました。

### 3. 「環境社会報告書2006」の主な内容

別紙

### 4. その他

配布開始日 : 日本語版 8月28日 (英語版 10月下旬)

ホームページ : 9月中旬掲載予定

サイトレポート : 当社の4つの工場及び国内関係会社9社について、各事業所での環境保全活動をサイトレポートにまとめました。9月1日以降、順次発行する予定です。

以上

(お問い合わせ先) 総務部広報課 TEL: 052-872-5896  
環境安全部 TEL: 052-872-5980

別紙

「環境社会報告書 2006」の主な内容

本報告書では、全体を企業行動規範の10項目に沿って、10章に区分けしています。さらに、5章の環境保全に関するページでは、環境方針の5つのカテゴリーに細分化し、それぞれの取組みについて記載しています。

Chapter	内容	頁	
2 . 消費者・顧客	・大規模地震への対策を講じています。	07	
	・各種の展示会に出展しました。	08	
4 . コミュニケーション	・SRI / エコファンドに組み入れられました。	09	
	・IR イベントに出展しました。	10	
5 . 環境保全	マネジメント	・2006 年度より、CO2 排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減目標を設定しました。各対策の進捗と削減量の管理を徹底します。	14
		・新たに、マレーシア NGK スパークプラグ(株)、台湾 NGK スパークプラグ(株)が ISO14001 の認証を取得しました。	15
		・排水と騒音の規制値超過が 2 件（内、関係会社 1 件）ありました。	16
		・環境会計における環境保全コストは、国内 10 社連結で 9,786 百万円、単独で 9212 百万円でした。また、環境保全の経済効果は、単独で 192 百万円でした。	17
	ファクトリー / オフィス	・小牧工場に新設した工場建屋では、省エネ型設備を採用しました。	20
		・2005 年 9 月に日和機器(株)、2006 年 3 月に(株)可児セラミック、(株)神岡セラミックにおいて、廃棄物の有効利用率が 98%を超え、ゼロエミッションを達成しました。	21
	プロダクツ	・全領域空燃比センサシステムが、第 19 回中日産業技術賞 経済産業大臣賞を受賞しました。	25
		・医療用酸素濃縮器 3E シリーズが、第 16 回省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。	26
	コミュニケーション	・環境を主体とした工場見学をグループ全体で 9 件受け入れました。	29
	マインド	・安全衛生・環境大会を開催し、地球温暖化をテーマとした社内パネルディスカッションを行いました。	30
6 . 社会貢献	・愛・地球博の博覧会協会と EPOC が共催したバックヤードツアーにガイド 2 名を派遣しました。 EPOC: 環境パートナーシップ・CLUB ( <a href="http://www.epoc.gr.jp/">http://www.epoc.gr.jp/</a> )	33	
7 . 従業員	・宮之城工場に新築した事務棟が、鹿児島労働局から“快適職場”に認定されました。	36	
	・労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、適格認定の取得を目指して準備を進めています。	37	